

平山南方に川有、其兩岸澤目平地、丑寅向にして宜しき泊なり、古平は川の兩岸赤崩平の名也、今爰の總名と成し也、土人文政壬午改七十三軒三百七十四人、多シ、

ヨイチ領略○中 ヨエチ運上や、略○中 名義はイウヲチなり、イウとは温泉の事、ヲチはある、此水源に温泉有故號る也、其地所は川の事也、此處は本名シユマライと云る處也、略○中 土人多し、文政壬午改九

十九軒五百六十四人、文政乙卯改七十九軒四百九十三人、ヲシヨロ領略○中 ヲシヨロ運上や、略○註 名義ウシヨロにして、懷の事也、此處懷の如く灣に成し故號く、略○中 灣口亥向にして、後に平山つゞき、凡百五六十町にてヲシヨロ岳ありて、雜木陰森たり、また其邊り李花多く、満開の時は海面に映じて、棹入漁舟は水晶盤裏を渉るかと思はる、土人多し、文政壬午改七十一軒二百九十七人、安政

タカシマ領 高島といへども、本名トカリシユマにして、譯て水豹岩トカリシユマの義也、此處灣の中に水豹の多く寄集る岩有、故に號しもの也、また一説には前の岩の形水豹に似たる故號るともいへり、略○中 高島運上や、略○註 前船縣り宜し、地形後山にして、右左とも岬有、内一灣をなし、深くして船繋

よし、略○中 土人有、文政壬午改四十一軒、人別百九十ヲタルナイ、譯て沙路澤にして、其地は石狩境の川也、今此場所の總名となるは、當所の土人總て、其澤目に住せしが故なり、略○中 ヲタルナイ運上や、略○中 地形高島よりアツタ領、コギヒルの大灣の奥に成、丑寅向にして、後はシユマサン岳よりカツナイ岳等聳え、海岸は近年迄歩行路無ししを、今度其岸には棧を架け、岩を鑿、石を碎て、今は可也に通行成様になりたり、略○中 土人多し、文政壬午改四十三軒、百五十人、安政乙卯改二十六軒、百二十人、安

〔西蝦夷日誌 五編〕石狩領略○中 イシカリ元小屋、略○註 他場所にては運上やと云、此處にて元小やと云は、石狩十三ヶ所の元小やと云より起し事なり、略○中 イシカリ譯て行詣て先か不見形を云、